企業戦士

COMPANY SOLDIERS

江上剛

GO EGAMI

講談社文庫

|著者| 江上 剛　1954年、兵庫県生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、第一勧業銀行（現・みずほ銀行）に入行。人事部、広報部や各支店長を歴任。銀行業務の傍ら、2002年には『非情銀行』（新潮文庫）で作家デビュー。その後、2003年に銀行を辞め、執筆に専念。他の著書に、『頭取無惨』『不当買収』『小説 金融庁』『絆』『再起』（すべて講談社文庫）などがある。

企業戦士（きぎょうせんし）
江上 剛（えがみ ごう）
© Go Egami 2011

講談社文庫
定価はカバーに
表示してあります

2011年9月15日第1刷発行

発行者——鈴木　哲
発行所——株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話 出版部（03）5395-3510
　　販売部（03）5395-5817
　　業務部（03）5395-3615
Printed in Japan

デザイン—菊地信義
本文データ制作—講談社デジタル製作部
印刷———豊国印刷株式会社
製本———株式会社千曲堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277042-2

目次

プロローグ　8
第一章　死　12
第二章　佐代子　48
第三章　弁護士　93
第四章　過労自殺　137
第五章　闘い　180

第六章　談合　220
第七章　協力者　260
第八章　裁判　304
第九章　正義　346
第十章　いつもそばにいるよ　391
解説　江川紹子　445

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

講談社文庫

常州大学图书馆
藏书章

企業戦士

江上 剛

講談社

目次

プロローグ　8
第一章　死　12
第二章　佐代子　48
第三章　弁護士　93
第四章　過労自殺　137
第五章　闘い　180

第六章　談合　220
第七章　協力者　260
第八章　裁判　304
第九章　正義　346
第十章　いつもそばにいるよ　391
解説　江川紹子　445

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

企業戦士

プロローグ

僕は、ベッドの脇に立っている。ベッドに半身を起こした佐代子が笑みを浮かべてこちらを見ている。徹が、佐代子のベッドの周りをはしゃぎながら走り回っている。

「だめよ。徹、走るの止めなさい」

佐代子が怒った。

「徹、静かにしないと、赤ちゃんが起きちゃうよ」

僕が言う。

徹はしぶしぶ走るのを止めて、佐代子に抱かれた生まれたばかりの赤ん坊に手を伸ばした。柔らかい頬に指が当たった。

「僕の妹だね」

徹が佐代子に言う。

「そうよ」

佐代子の顔が輝いている。まるで聖母だ。

「名前は？」
「まだよ」
「僕がつけたい」
「徹には無理でしょう。漢字だって知らないしね」
佐代子が僕を見て、微笑(ほほえ)む。
「僕がつけたい。お願い」
徹が強く言う。
「パパにお願いしたら」
佐代子がからかうように言った。
「パパ！　僕に名前をつけさせてよ」
僕は、カメラのセルフシャッターをセットしていた。
「ちょっと待てよ。今、セットしているから」
僕は徹をたしなめた。
「嫌だ。僕がつける。僕の妹だから」
徹はきかない。
「うるさいな。さあ、セット出来たよ」

僕は、佐代子の傍（かたわら）に駆け寄る。
「みんなカメラを見て」
僕は佐代子の肩に手をかけ、徹の頭に手を置いた。
「パパ、名前」
徹が見上げている。
「徹、カメラを見なさい」
「名前つけさせて」
「ああ、いいよ」
僕は徹の頭を無理やりカメラに向けた。
「みんなが一緒だから、みんながいい。妹の名前はみんなだよ」
徹は大きな声で言った。
「はい、はい」
僕は答えた。
カシャ。シャッター音が響いた。
娘は、「みんな」から「美奈（みな）」となった。徹は、長い間、みなではなくみんなと呼んでいた。

第一章　死

1

僕は、死んでしまったようだ。「ようだ」というのは、死んだという自覚がないからだ。周りの景色は、いつもと変わらずはっきりと見えるし、人々が話している声も聞こえる。なんにも変わらないと自分では思っていたが、黒の喪服を着て沈痛な面持ちの友人を見つけて、おい、久しぶりだなと声をかけたのに、驚いたことに全くの無反応。彼の目の前に立って、声をかけたりしたが、やっぱり駄目だ。どうも彼からは僕が見えないらしいってことにようやく気づいた。僕は、自分の姿が、はっきりと見えるのに、どうして彼は僕が見えないのだろうと不思議に思ってひょいと顔を上げると、そこに僕の顔写真があった。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com